

《担当者名》永野 善廣（非）

【概 要】

フランス語はフランス文化と相互作用を起こしながら発展・形成してきた言語である。フランス語を取り巻く環境や文化、あるいは歴史的背景を理解することで現代フランス語を体系的に修得する。

【学修目標】

1. フランス語はローマ字式には発音しない。綴り字（スペル）と発音の関係を規定する「規則」を学ぶことで、正確に発音できるようにする。
2. フランス語の全ての基本文型には必ず主語と動詞がある。「～が。」「～に。」「～を。」「～かと。」という言い方はフランス語では成立しない。主語と動詞を省くことなく、明確な文を作る習慣を身につける。基本6文型のうち基本3文型を修得する。
3. 主語に応じて動詞の形（スペル）が変わる「活用」を理解することで動詞を正しく使うことができる。
4. フランス語の名詞や形容詞や代名詞には文法上の性別があることを認識し、簡潔な文を作ることができる。
5. フランス語の冠詞（英語ならthe, a, an, some）のルールを理解し、適切な表現ができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	「ボンジュール」とは発音しない	母音、子音（特にrとlの発音）、鼻音を発音できる。	永野
2	つづりと発音の規則を学ぶ	フランス語のアルファベットを発音できる。	永野
3	挨拶、お礼、お詫びの表現を学ぶ	挨拶、お礼、お詫びなどをフランス語で言えるようになる。	永野
4	敬語を使った挨拶、親しい人との挨拶を声を発して学ぶ。数字の表現を練習する	会話で重要な挨拶を声を発してすることで、簡単にフランス語になれることができる。	永野
5	男性名詞、女性名詞、そして冠詞がわからないと、フランス語は理解不能の言語	男性名詞、女性名詞を学び、不定冠詞、定冠詞、部分冠詞の使い方を学ぶことで、正確な表現ができる。	永野
6	名詞、単数複数を学び、練習問題で理解を深める	カフェのメニュー、身の回りのものをフランス語で表現ができる。	永野
7	動詞の「活用」、文型	フランス語は主語と動詞がないと文が成立しない。主語に応じて動詞のカタチ（スペル）が変わる「活用」という考え方を理解することでフランス語の基礎を強固にすることができる。	永野
8	主語とは何か？	名詞の機能および主語と動詞の関係を理解できるようになる。 三人称と活用の理解を深めることができる。	永野
9	主語＋動詞＋属詞 フランス語には助詞は不要	「マリー です 看護師」という語順を深く理解し、フランス語では助詞を使わないことを学ぶ。さらに、フランス語特有の「属詞」の理解を深めることができる。	永野
10	形容詞	名詞を修飾する機能の他に、属詞としての形容詞を学ぶことで、形容詞を的確に使い分けることができる。	永野
11	疑問文	3種類の疑問文を作ることができる。	永野
12	否定文	否定文を作ることができる。	永野
13	主語＋動詞＋直接目的語 人称代名詞	主語や補語として機能する人称代名詞を学ぶことで表現の幅を広げることができる。	永野
14	副詞と前置詞	副詞と前置詞の使い方をマスターすることで、深みのある正確な文を作ることができる。	永野
15	三つの文型・疑問文・否定文の復習	簡単な日常会話を話すことができる。	永野

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

定期試験 90%（ただし、ノート持ち込み可） 平常点 10%

【教科書】

「クロワッサン 基礎からわかるフランス語」朝日出版社

【備考】

試験について、履修生が小人数の場合は、授業の15回目に口頭試験または詩の暗唱

【学修の準備】

復習をするようにしてください。特に、[r]のようなフランス語特有の発音を練習してください。（復習30分）
インターネットを利用して、フランス語に触れてください。フランス語をパソコンで入力し、筆記練習をしてください。（予習30分）

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP5： 多様な文化や価値観を尊重して地域社会に貢献できる能力を身につけている。

DP4： 保健・医療・福祉をはじめ、人間に関する様々な領域の人々と連携・協働できる能力を身につけている。